



ジュニアサイエンス 「宇宙探査の歴史 —宇宙の起源にせまる 21のアクティビティ」

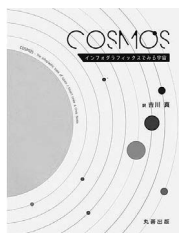
Mary Kay Carson 著, 谷口義明 監訳,
鈴木将・鈴木理 訳
丸善出版 3,000円+税 132頁

人類はいつの時代でも、最先端技術の粋を集め、宇宙のことを理解しようとしてきた。本書は「太陽系探査の歴史—宇宙に近づく22のアクティビティ」の続編として、太陽系の向こうに広がる世界を知るための人類の飽くなき挑戦とその成果が、小中学生向けに解説されている。タイトルに、原題にはない「宇宙の起源にせまる」という言葉を選んだ辺りにも、訳者のこだわりが感じられる。

天文学の歴史を扱った本は多数あるが、観測装置にスポットを当てたものはこれまでほとんどなかったのではないだろうか。何より豊富な資料画像が興味深い。世界中に散逸している歴史的資料は収集が非常に困難であるが、そんな貴重な資料を存分に味わえることも本書の特徴と言える。一方で、最新の観測装置についてはあまり多くを語られていないところが残念だ。ALMAや重力波望遠鏡などにも触れて欲しかったというのが素直な感想である。

本書の内容はとにかく広範囲だ。それ故研究者としては各テーマに対していく分物足りなさを感じるが、本書の対象である小中学生なら充分読み応えがあるのではないか。小学生でも読めるよう、ふりがなも入っている。宇宙のしくみを知るための挑戦を次は自分も—そんな夢を抱いてくれる子どもが一人でも増えないかと、つい期待してしまう一冊である。

藤原智子 (日本スペースガード協会)



COSMOS The infographic book of space Stuart Lowe & Chris North

COSMOS
インフォグラフィックスでみる宇宙

吉川真 訳
丸善出版 3,000円+税 224頁

「インフォグラフィックス」という言葉を知らなかった。これは図の中にいろんな情報を盛り込み、2次元的に知識や情報を伝える試みらしい。この本を開くと単純な線や色で表現された図が載っており、図には物の大きさや距離、年代等の情報が書き込まれている。どれも一つの物事・概念を俯瞰できる視点で作図されているのが良い。

本書で私の目を引いた例をいくつか挙げてみる。宇宙に出た生物のうち宇宙で繁殖に成功したのはクラゲとめだかとゴキブリ(さすがごきぶり!)。恒星の大きさを比較した図では巨星と比べると太陽はなんと小さいことか! 太陽系で水の存在が確認されている地球、火星、エウロパ、エンケラドゥスで水の量を比べた図では、地球の水の量は案外と少ない。エウロパには表面の水と地下の海を合わせると地球の2倍の量の水があると推定されている。UFOを見かけた際の判定フローチャートも面白かった。判定法に従って進むと大半のUFOは人工衛星だったり惑星だったりなのだが、どれにもあてはまらなかったら、未知との遭遇?

恒星のスペクトル分類や宇宙の距離はしご等は高校の地学の教科書に載っているが、教科書だけでは細部はわからない。本書のような図で補うと理解が深まるだろう。本書の解説文は少量であり、図が含む膨大な情報から何を読み取るかは読者次第である。どの項目も見開きで1トピックなので、どこから開いてもきっと新しい発見があるだろう。中高の授業でこうしたインフォグラフィックスを使い、子どもたちの気づく力や説明する力を引き出す試みもあり得るだろう。

吉田二美 (国立天文台)